

2022年西洋中世学会会員年間業績リスト（2022年1月～12月）

* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです（氏名=五十音順）。

上尾信也（アガリオ シンヤ）

「「ダンテ・トルバドゥール」—『神曲』にみる文芸の伝承と音楽」『世界文学 特集：ダンテ』（世界文学会）、39-45頁。

【書評】「赤松加寿江『近世フィレンツェの都市と祝祭』」『建築史学』79（建築史学会）、185-200頁。

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

【論文】「司教の巡察をめぐるグロステストと聖堂参事会の論争」『関西大学文学論集』71(4)、45-7頁。

【論文】「フランシスカン、アダム・マーシュのシモン・ド・モンフォール宛書簡」、『関西大学東西学術研究所創立70周年記念論文集』、37-64頁。

【新刊紹介】Wilkinson, Louise, *The Household Roll of Eleanor de Montfort, Countess of Leicester and Pembroke, 1265*, Boydell and Brewer, 『西洋中世研究』14、241頁。

阿部俊大（アベ トシヒロ）

「イベリア半島のガバナンス」『中世ヨーロッパの政治的結合体』（高山博・亀長洋子編、東京大学出版会）、406-409頁。

「「大レコンキスタ」期における教皇庁のムデハルへの対応」『中世ヨーロッパの政治的結合体』（高山博・亀長洋子編、東京大学出版会）、419-439頁。

【翻訳】『アラゴン連合王国の歴史：中世後期ヨーロッパの一政治モデル』（監訳、明石書店）

【書評】「櫻井康人『十字軍国家の研究：エルサレム王国の構造』」『西洋史学論集』59、26-32頁。

阿部ひろみ（アベ ヒロミ）

„Außenpolitik“ der Reichsstadt Nürnberg im 15. Jahrhundert – Korrespondenz und Gesandtschaften des Nürnberger Rates (Nürnberger Werkstücke zur Stadt- und Landesgeschichte 79), Nürnberg

「紛争解決からみる中世後期の神聖ローマ帝国—バイエルン公領の分割・相続をめぐる争い」高山博／亀長洋子（編）『中世ヨーロッパの政治的結合体—統治の諸相と比較—』東京大学出版会 243-263頁。

飯尾圭司（イイオ ケイシ）

「ヘンリー4世の対貴族政策—ヨーク公エドワードを事例として」『西洋史学』273、1-21頁。

猪刈由紀（イカリ ユキ）

【論文】「モビリティの歴史学のために——中・近世ヨーロッパにおける空間・社会移動の歴史研究の理論的前提——」『甲南大学紀要 文学編』172、199-213頁。（佐藤公美、踊共二、皆川卓と共著）

【その他】“Why European History – Why not European History?”, in: Sonja Levsen / Jörg Requate (eds.), *Why Europe, Which Europe? A Debate on Contemporary European History as a Field of Research*, <https://europedebate.hypotheses.org/2401> (with Hiramatsu, Hideto)

「特集1 近代都市形成期のキリスト教と社会事業—黎明期の苦悩（第72回大会シンポジウム）コメント」『キリスト教史学』76、29-32頁。

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

『ヨーロッパ史入門 市民革命から現代へ』（岩波書店）

『歴史学の作法』（東京大学出版会）

「中世民衆宗教運動における “空になること／ケノーシス” ---ローザンヌのアンリを中心に」『福音と世界』（新教出版社）2月号、18-23頁。

「著者メッセージ：自分で考え、行動するために、読書を」『岩波ジュニア新書読書ガイドブック 2022』（岩波書店）6月、4-6頁。

池田真弓（イケダ マユミ）

「世界に散らばる装飾写本—マンスフェルト祈禱書を辿って」大沼由布・徳永聡子編『旅するナラティブ：西洋中世をめぐる移動の諸相』（知泉書館）、223-240頁。

石田隆太（イシダ リュウタ）

Pedro Gómez's *Compendium* and His Acceptance of Aquinas: A Jesuit Position. *Miscellanea philosophica: The Tetsugaku Shiso Ronso* (40), pp.12–23.

「トマス・アキナスの「悪の研究」—『定期討論集 悪について』第1問題」『古典古代学』（筑波大学大学院人文社会科学研究科古典古代学研究室）14、15-40頁。

「靈的質料とボナヴェントゥラの質料理解—自然学と形而上学」『中世思想研究』（中世哲学会）64、55-69頁。

「トマス・アキナスの食欲論：『悪について』第13問」『人文学』（同志社大学人文学会）210、1-41頁。

[翻訳]ウンベルト・エーコ『中世の美学—トマス・アキナスの美の思想』（慶應義塾大学出版会）（和田忠彦、石井沙和との共訳）

[翻訳]「ドゥンス・スコトゥス『「命題集」講義録』第2巻第3区分第1部第4問題（nn.102-24）試訳」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）30、60-68頁。（本間裕之との共訳）

[翻訳]「ピエトロ・ポンポナッツィ『魂の不死性について』試訳（第5章～第8章）」『哲学・思想論集』（筑波大学人文社会科学研究科哲学・思想専攻）47、33-51頁。（高石憲明との共訳）

[翻訳]「トマス・アキナス『「魂について」註解』第三巻第六章 試訳」『倫理学』（筑波大学倫理学研究会）37、211-223頁。（高石憲明との共訳）

[書評]Lidia Lanza and Marco Toste (eds.), *Summistae: The Commentary Tradition on Thomas Aquinas' Summa Theologiae from the 15th to the 17th Centuries*.『中世思想研究』（中世哲学会）64、150-156頁。

[新刊紹介]Lidia LANZA & Marco TOSTE (eds.), *Summistae: The Commentary Tradition on Thomas Aquinas' Summa Theologiae from the 15th to the 17th Centuries*.『西洋中世研究』（西洋中世学会）14、229頁。

伊藤亜紀（イトウ アキ）

La gente vestita di blu (International Christian University Publication)

「「耐える女」の表象——ボッカッチョの『テセイダ』と『デカメロン』第10日第10話——」池上忠弘企画・狩野晃一編『チョーサー巡礼 古典の遺産と中世の新しい息吹に導かれて』（悠書館）、277-291頁。

井上浩一（イノウエ コウイチ）

[訳書]ジュディス・ヘリン『ラヴェンナ——ヨーロッパを生んだ帝都の歴史』井上浩一訳、白水社

[その他]「コンスタンティノス11世、最期に放った光芒」『歴史街道』2022年11月号

今井澄子（イマイ スミコ）

「帝国スペインにおけるタピスリー—ネーデルラント総督マリアの仲介と「ブランド」の形成をめぐって—」岡田裕成編『帝国スペイン、交通する美術』（三元社）、136-168頁。

“Portraits of Margaret of York, Duchesse of Burgundy at Prayer,” *Bulletin of Osaka Ohtani University* 56, pp. 157-182.

“Portraits of Nicolas Rolin, Chancellor of Burgundy at Prayer: On the Iconography of the *Beaune Polyptych* and Model of Devotional Portraits,” *Bulletin of the Research in History and Culture, Osaka Ohtani University* 22, pp. 9-32.

伊能哲大（イノク アキヒロ）

「アシジのフランシスコの「兄弟なる太陽の賛歌」^{ブネウマ}」（『風』（井上洋治神父創設「風の家」の機関誌）113、2022年秋・冬。76-102頁。

岩波敦子（イワナミ アツコ）

「ハインリヒ獅子公の誕生—新たな統治者像の生成と伝統」赤江雄一・岩波敦子編『中世ヨーロッパの「伝統」—テキストの生成と運動』（慶應義塾大学出版会）、149-202頁。

内川勇太（ウチカワ ユウタ）

「「長い十世紀」のイングランドにおける王権と地方の政治的コミュニケーション：令状登場以前の文書を通じた統治」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較』、37-72頁。

[書評]Hiroshi Takayama, *Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages* 『クリオ』35/36、37-50頁。

[新刊紹介] Hiroshi Takayama, *Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages* 『西洋中世研究』14、239頁。

梅村尚幸（ウメムラ ナオユキ）

『ドイツ城郭史 無窮の楼閣』（私家版）

大黒俊二（オオグロ シュンジ）

『ヨーロッパと西アジアの変容 11～15世紀』「岩波講座 世界歴史 第9巻」（林佳世子との共編著、岩波書店）

「リテラシーから見るルネサンス期イタリア社会」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』昭和堂、211-225頁。

[新刊紹介] アレッサンドロ・ヴァグナー（伊藤博明訳）『世界初のビジネス書—15世紀イタリア商人ベネデット・コトルリ 15の黄金則—』『日伊文化研究』60、86頁。

「犬は文化を嗅ぎ分けられるか？」『図書』884、6-9頁。

大貫俊夫（オオヌキ トシオ）

「総説 教会と修道会」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体:統治の諸相と比較』（東京大学出版会）、286-290 頁。

「盛期中世における修道会ガバナンス」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体:統治の諸相と比較』（東京大学出版会）、359-382 頁。

『チ。—地球の運動について—』をめぐるファクトとフィクション『ユリイカ』51 (1)、283-289 頁。
「書評 河内祥輔、小口雅史、M・メルジオヴスキ、E・ヴィダー編『儀礼・象徴・意思決定—日欧の古代・中世書字文化—』—西洋史の側から—」『国際日本学』19、142-153 頁。

大沼由布（オオヌマ ユフ）

『旅するナラティヴ—西洋中世をめぐる移動の諸相』（徳永聡子との共編、知泉書館）

「体と心と言葉の旅—英仏版『マンデヴィルの旅行記』とイングランド像」大沼由布・徳永聡子編『旅するナラティヴ—西洋中世をめぐる移動の諸相』（知泉書館）、5-21 頁。

岡北一孝（オカキタ イッコウ）

「アルベルティ『建築論』の *pulchritudo* と *ornamentum* —建築における美と装飾を再考する—」『京都美術工芸大学研究紀要』（京都美術工芸大学）2、49-65 頁。

【新刊紹介】Tobias Frese, Wilfried E. Keil and Kristina Krüger (Eds.), *Sacred Scripture / Sacred Space, The Interlacing of Real Places and Conceptual Spaces in Medieval Art and Architecture*. 『西洋中世研究』14、215 頁。

岡本孝信（オカモト タカノブ）

「アングロ=サクソン期イングランドの土地・権利関係文書の真偽問題と研究動向」『学習院史学』60、81-99 頁。

小澤実（オザワ ミノル）

谷口幸男『ルーン文字研究序説』（編著、八坂書房）

『史学科の比較史：歴史学の制度化と近代日本』（佐藤雄基との共編、勉誠出版）

「半世紀の孤独—谷口幸男『ルーン文字研究序説』（1971）とその後」谷口幸男『ルーン文字研究序説』（八坂書房）、283-297 頁。

「編者序言」谷口幸男『ルーン文字研究序説』（八坂書房）、5-7 頁。

「異文化の交差点としての北欧」『岩波講座世界歴史9：ヨーロッパと西アジアの変容11～15世紀』（岩波書店）、163-182 頁。

「阪西紀子の社会史」阪西紀子『北欧中世史の研究—サガ・戦争・共同体』（刀水書房）、253-264 頁。

「終章：史学科の比較史へ」（佐藤雄基と共著）小澤・佐藤編『史学科の比較史』（勉誠出版）、563-574 頁。

「小林秀雄の時代—戦前戦中の立教史学科、史学会、『史苑』」小澤・佐藤編『史学科の比較史』（勉誠出版）、419-46 頁。

「序章：史学科をめぐるヒストリオグラフィー」（佐藤雄基と共著）小澤・佐藤編『史学科の比較史』（勉誠出版）、1-14 頁。

「収奪の場としてのイングランド：北ヨーロッパ経済、デーンゲルド、クヌートの統治政策」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体』（東京大学出版会）、73-95 頁。

「北洋世界の統治空間」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較』（東

京大学出版会)、23-35 頁.

「商人ヴァイキングの時代—初期中世の交易ネットワーク」菊地雄太編『図説中世ヨーロッパの商人』(河出書房新社)、7-17 頁.

「ルーン文字の遍歴：第8回：中世のルーン：教会と都市のリテラシー」研究社 Web マガジン *Lingua* 2022 年 10 月

「ルーン文字の遍歴：第7回：東方の魅惑：イングヴァール石碑とアイスランドの記憶」研究社 Web マガジン *Lingua* 2022 年 2 月

「西洋中世学会第14回大会シンポジウム報告「危機を前にした人間：西洋中世における環境・災害・心性」」『西洋中世研究』14、243-246 頁.

「歴史学研究会大会全体会「事実と虚構/言葉の力」コメント」『歴史学研究増刊号』1028、19-21 頁.
[新刊紹介] Michael BORGOLTE, *Die Welten des Mittelalters: Globalgeschichte eines Jahrtausends*, Berlin: Beck, 2022, 1102 S. 『西洋中世研究』14、208-209 頁.

[新刊紹介] Eva MYRDAL (ed.), *Asia and Scandinavia: New Perspectives on the Early Medieval Silk Roads*, *The Bulletin of the Museum of the Far Eastern Antiquities* 81, Stockholm, The Museum of the Far Eastern Antiquities, 2020, 224 p. 『西洋中世研究』14、233 頁.

[新刊紹介] Jón Viðar SIGURÐSSON, *Scandinavia in the Viking Age*, Ithaca, Cornell UP, 2022, 224 p. 『西洋中世研究』14、237-238 頁.

「2021 読書アンケート」『みすず』711、32-34 頁.

櫻田宗紀 (オダ ソウキ)

「中世教皇庁の財務管理ネットワーク：北欧における聖地支援金徴収の事例から」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、311-331 頁.

梶原洋一 (カジワラ ヨウイチ)

Du frère au maître. Les dominicains de France face au système universitaire des grades au Moyen Âge (Paris, Cerf)

「中世ドミニコ会統治における総会と総長—大学学位の問題を通じて」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体：統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、383-402 頁.

勝谷祐子 (カツタニ ユウコ)

« Un chœur d'anges pour l'Assomption de la Vierge : étude du décor de la chapelle basse de la collégiale de Saint-Bonnet-le-Château offert par Anne Dauphine », *Bulletin du centre d'études médiévales d'Auxerre*, 26-1, pp.1-39.

加藤玄 (カトウ マコト)

『ジャンヌ・ダルクと百年戦争—時空をこえて語り継がれる乙女』(山川出版社)

「王」として「公」領を統治する」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体—統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、223-241 頁.

「総説 大陸ヨーロッパにおける政治的結合体とその統治」(菊地重仁との共著) 高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体—統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、121-129 頁.

[新刊紹介] Philippe Contamine, *Jeanne d'Arc et son époque: Essais sur le XVe siècle français*; Valérie Toureille, *Jeanne d'Arc*. 『西洋中世研究』14、211 頁.

加藤磨珠枝 (カトウ マスエ)

Pope Gregory III and S.Crisogono: Liturgy and the worship of images. *Storia dell'arte on the road: Studi in onore di Alessandro Tomei*, Campisano Editore, Roma, pp. 27-35.

「西洋初期中世の王朝の美術」「教皇庁と美術」『キリスト教文化事典』(丸善出版)、282-283、382-383 頁。

「一角獣」「解剖学」「キリスト」「聖堂」「乳房」『別冊太陽 キーワードで読み解く西洋絵画を知る 100 章』(監修 田中正之、平凡社)、21、46-47、67、110-111、124-125 頁。

[書評]「石鍋真澄『教皇たちのルネサンスとバロックの美術と社会』」『日本の神学』61、163-173 頁。

[書評]「Jaś Elsner, ed., *Empires of Faith in Late Antiquity: Histories of Art and Religion from India to Ireland*, Cambridge UP 2020」『西洋古典学研究』69、69-72 頁。

加納修 (カノウ オサム)

Entre singulier et pluriel: étude sur l'emploi de la première personne dans les lettres d'Éginhard (ca. 770-840), in « *Si est tens a fester* ». *Hommages à Philippe Walter*, éd. K. Watanabe, Tokyo, p.129-139.

[共訳]「ヨルダネス『ゲティカ』翻訳 (1)」『東方キリスト教世界研究』6、3-57 頁。(小坂俊介・村田光司と共訳)

神谷貴子 (カミヤ タカコ)

Die Ausbürger der Stadt Freiburg in der ersten Hälfte des 16. Jahrhunderts (Forschungsbericht), *Freiburger Geschichtsblätter* 99, pp. 196-211.

河原温 (カワハラ アツシ)

『歴史のなかの人間』(近藤成一・杉森哲也編、分担執筆)(放送大学教育振興会)(第3章:マルコ・ポーロ/第8章:アブラハム・オルテリウス/第12章:マルク・ブロック)

「中近世ヨーロッパ都市に見る《慈善》と《救貧》—金澤周作『チャリティの帝国に寄せて—」『三田学会雑誌』115(2)、17-32 頁。

[書評]「今井澄子監修、木川弘美責任編集『天国と地獄、あるいは至福と奈落—ネーデルラント美術の光と闇』」『図書新聞』3528。

菊地智 (キクチ サトシ)

[書評] Stephanus Axters, *Geschiedenis van de vroomheid in de nederlanden*, 4 dln. Studiën en tekstuitgaven van Ons Geestelijk Erf, dl. 22-25. Antwerpen. De Sikkel, 1950-1960 『中世思想研究』64、165-169 頁。

[新刊紹介] Guido de Baere (ed.), *Die grote evangelische peerle* (deel 1, historische en filologische studie; deel 2, tekst). *Miscellanea Neerlandica* 48. Leuven. Peeters, 2021 『西洋中世研究』14、213-214 頁。

菊地重仁 (キクチ シゲト)

(加藤玄との共著)「第二部総説:大陸ヨーロッパにおける政治的結合体とその統治」高山博/亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体:統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、121-129 頁。

「『恩恵』の剥奪:フランク諸王の統治における『威嚇』行為に関する一考察」高山博/亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体:統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、131-150 頁。

「コラム：フランク王国の法文化とテキスト」大黒俊二／林佳世子責任編集、大月康弘／清水和裕編集協力『西アジアとヨーロッパの形成：八～一〇世紀』（岩波講座世界歴史 8）（岩波書店）、108-109 頁。

北田葉子（キタダ ヨウコ）

「イタリアにおける「名誉の決闘」と騎士道学」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』（昭和堂）、241-252 頁。

北館佳史（キタダテ ヨシフミ）

「12・13 世紀のシトー会の例話集に見る逃亡者・離脱者」松本悠子・三浦麻美 編『歴史の中の個と共同体』（中央大学出版部）、83-109 頁。

「12 世紀末のフォンテーヌ・レ・ブランシュ修道院の歴史叙述—共同体の過去の再構成と財産の保護—」『人文研紀要』（中央大学人文科学研究所）101、1-28 頁。

『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳（四）『紀要』（中央大学文学部）291、113-137 頁。

久木田直江（クキタ ナオエ）（Naoë Kukita Yoshikawa）

The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation, A Critical Edition from Oxford, MS Bodley 220, ed Naoë Kukita Yoshikawa and Anne Mouron with the assistance of Mark Atherton, Exeter Medieval Texts and Studies (Liverpool: Liverpool University Press, 2022)

『女性の医学』—西洋中世の身体とジェンダーを読み解く」、大黒俊二、林佳世子編、岩波講座 世界歴史 9 『ヨーロッパと西アジアの変容 11~15 世紀』（岩波書店）、223-41 頁。

草生久嗣（クサブ ヒサツグ）

「総説 ビザンツ帝国の政体史と統治ガバナンス」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的統合体—統治の諸相と比較』（東京大学出版社）、505-514 頁。

「アレクシオス一世の爵位改革—外部人材の登用システムとその運用」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的統合体—統治の諸相と比較』（東京大学出版社）、577-596 頁。

【書評】「池上俊一『ヨーロッパ中世の想像界』」『史学雑誌』131(1)、80-89 頁。

工藤義信（クドウ ヨシノブ）

「教訓的テキストの移動とミセラニー写本の文化的解釈の可能性—15 世紀ノリッジの商人が所有していた 2 写本の新たな考察」大沼由布、徳永聡子編『旅するナラティブ—西洋中世をめぐる移動の諸相』（知泉書館）、207-222 頁。

Self-Identity and Self-Presentation in the Late-Fifteenth-Century Norwich Merchant's Miscellany Manuscripts Known as "The Fisher Miscellany." *Journal of Early Book Society* 25, pp.1-38.

久米順子（クメ ジュンコ）

「「キリストの戦士」としてのサンティアゴ・マタモロスと拡大するイスパニア世界」岡田裕成編著『帝国スペイン 交通する美術』（三元社）、95-134 頁。

瀧本佳容子、黒田祐我、押尾高志、久米順子、鎌田由美子「慶應義塾図書館所蔵アルフォンソ 10 世関連写本ファクシミリ版二作品解説—『聖母マリアの古謡集』および『チェス、さいころ、盤上ゲームの書』—」『言語・文化・コミュニケーション』（慶應義塾大学日吉紀要）54、75-96 頁。（共著、第 4 章を担当）

[共訳] マリア・J・フェリシアノ「中世アンダルス美術の遺産 その存在と不在を読み解く」岡田裕成編著『帝国スペイン 交通する美術』（三元社）

[共訳] フロセル・サバテ『アラゴン連合王国の歴史 中世後期ヨーロッパの一政治モデル』（明石書店）

[新刊紹介] A. Villa del Castillo, *Talleres de escultura cristiana en la Península Ibérica (siglos VI-X): Análisis arqueológico*, 2vols., Oxford, 2021 『西洋中世研究』14、240頁.

黒川正剛（クロカワ マサタケ）

「文庫版解説 学際的な魔女狩り研究を切り開いた先駆者」ノーマン・コーン著（山本通訳）『新版 魔女狩りの社会史』（筑摩書房）、521-537頁.

桑原夏子（クワバラ ナツコ）

「ピサ、サン・フランチェスコ聖堂サルディ礼拝堂壁画—タッデオ・ディ・バルトロ作《聖母のよみがえり》の制作背景」『西洋中世研究』14、123-144頁.

後藤里菜（ゴトウ リナ）

「人から神へ、神から人へ ——身体と感情を通じた道すじを追って」『福音宣教』（オリエンス宗教研究所）6月号、26-32頁.

「身体をつうじた空無化（ケノーシス）——西洋中世の女性たちをめぐる」『福音と世界』（新教出版社）7月号、24-29頁.

[新刊紹介] 「ジャック・ハートネル著『中世の身体——生活・宗教・死——』飯原裕美訳、青土社『史学雑誌』131(7)、109-110頁.

佐伯（片倉）綾那（サエキ（カタクラ）アヤナ）

[書評] 「パメラ・トラー著・西川知佐訳『ウィメン・ウォリアーズ はじめて読む女戦記』花東書房、2022年」『週刊読書人』3460、6面

[新刊紹介] 「Stavroula CONSTANTINOIU & Mati MEYER (eds.), *Emotions and Gender in Byzantine Culture [New Approaches to Byzantine History and Culture]*, Cham, Palgrave Macmillan, 2019, xxiii+327p., \$139.99」『西洋中世研究』14、210頁.

[カフェ通信] 「12世紀ビザンツ皇女アンナ・コムネナの受容 漫画『アンナ・コムネナ』を読む」『関西ジェンダー史カフェ カフェ通信』10、2-4頁.

坂本邦暢（サカモト クニノブ）

Finite God and Infinite Space: Conrad Vorstius and David Gorlaeus. In Atoms, Corpuscles and Minima in the Renaissance. Edited by Christoph Lüthy and Elena Nicoli (Brill), 227-246.

坂本環（サカモト タマキ）

「「正義」はなぜ2度描かれたのか—アンブロージョ・ロレンツェッティ作《善政の寓意》に視覚化されたアリストテレスとトマス・アキナスの政治理論」『西南学院大学大学院研究論集』15（西南学院大学大学院）、69-86頁.

櫻井康人（サクライ ヤスト）

「教皇アレクサンデル4世の十字軍政策」『ヨーロッパ文化史研究』23、115-136頁.

「教皇ウルバヌス4世の十字軍政策（上）」『東北学院大学論集 歴史と文化（旧歴史学・地理学）』

65・66、103-123 頁.

佐々木徹 (ササキ トオル)

「終末論」『茨城キリスト教大学紀要』56、59-77 頁.

佐々木博光 (ササキ ヒロミツ)

「中世のユダヤ人—ともに生きるとは—」『ヨーロッパと西アジアの変容 11~15 世紀 (岩波講座 世界歴史 9 卷)』(岩波書店)、263-280 頁.

<序文>「特集「中世のユダヤ人」に寄せて」『西洋中世研究』14、2-6 頁. (田口正樹氏と共著)

「中世のユダヤ人迫害、その動機づけの歴史」『西洋中世研究』14、43-62 頁.

佐藤彰一 (サトウ ショウイチ)

『修道院と農民—会計文書から見た中世形成期ロワール地方 (新装版)』(名古屋大学出版会)

『フランク史 II—メロヴィング朝の模索』(名古屋大学出版会)

「中世ヨーロッパの展開と文化活動」大黒俊二他編『岩波講座 世界歴史 8 西アジアとヨーロッパの形成 8~10 世紀』(岩波書店)、77-107 頁.

L'idée japonaise de « l'Histoire occidentale » sous l'ère Meiji, *Compte Rendu des Inscriptions et Belles Lettres*, 2019, 4 (novembre - décembre), pp. 1381-1385.

[共訳]ニコル・ルメートル『村の公証人—フランス近世の家政書を読む』(名古屋大学出版会)

[新刊紹介] Christoph Haak, *Die Krieger der Karolinger: Kriegsdienste als Prozesse gemeinschaftlicher Organisation um 800.* 『西洋中世研究』14、220-221 頁.

佐藤猛 (サトウ タケシ)

『ペストの古今東西—感染の恐怖、終息への祈り—』(佐々木千佳との共編、秋田文化出版)

[書評]「阿河雄二郎 『近世フランス王権と周辺世界——王国と帝国のあいだ』」『図書新聞』3563、3 頁.

佐藤公美 (サトウ ヒトミ)

Ikki 一揆/ Leagues: Languages and Representations of Community in Medieval Japan and Europe (under joint authorship with Serena FERENTE), Édité par Atsushi Egawa, Marc Smith, Megumi Tanabe, Hanno Wijsman, *Horizons médiévaux d'Orient et d'Occident : Regards croisés entre France et Japon*, Éditions de la Sorbonne.

「モビリティの歴史学のために——中・近世ヨーロッパにおける空間・社会移動の歴史研究の理論的前提——」(猪刈由紀、踊共二、皆川卓との共著)『甲南大学紀要 文学編』172、199-213 頁.

「境界の領主たちのイタリア同盟——一五世紀の領主・小領主国家・帝国封」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』(昭和堂) 125-139 頁.

「『豊臣平和令』の彼方へ—西洋中・近世史学からの回顧と展望」稲葉継陽・清水克行編『村と民衆の戦国時代史——藤木久志の歴史学』(勉誠出版)

柴田隆功 (シバタ タカノリ)

「カロリングの遺産」とその伝承経路—オットー朝最初期の証書発給活動から」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体 統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、151-172 頁.

[新刊紹介]「Gerd ALTHOFF, *Rules and Rituals in Medieval Power Games: A German Perspective*

[Medieval Law and Its Practice, 29], Leiden, Brill, 2019, xii+282p., €121.] 『西洋中世研究』 14、203 頁.

渋谷聡 (シブタニ アキラ)

(単著) 「比較国制史研究と民科の営み」『新しい歴史学のために』 300 号、2022 年 6 月 (京都民科歴史部会)

嶋田英晴 (シマダ ヒデハル)

『レシュート (Reshūt)』研究序説『西洋中世研究』 14、26-42 頁.

図師宣忠 (ズシ ノブタダ)

「史実とフィクションのあわいを探る——歴史解釈としての映画の可能性」大黒俊二、林佳世子責任編集『岩波講座 世界歴史 9 巻——ヨーロッパと西アジアの変容：11～15 世紀』(岩波書店)、135-136 頁.

[共訳] ジョン・H・アーノルド『中世史とは何か』(岩波書店)

[新刊紹介] Peter BILLER and Lucy J. SACKVILLE (eds.), *Inquisition and Knowledge, 1200-1700*, York Medieval Press, 2022, 『西洋中世研究』 14、207-208 頁.

鈴木桂子 (スズキ ケイコ)

『ヒルデガルト・フォン・ビンゲン—幻視の世界、写本の挿絵』(中央公論美術出版)

鈴木広和 (スズキ ヒロカズ)

「中世ハンガリー王国における文書発給機関としての教会組織 — 公証教会機関」高山博、亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体 統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、333-358 頁.

高木麻紀子 (タカギ マキコ)

『キリスト教文化事典』(分担執筆、丸善出版)

「中世末期フランスおよび南ネーデルラントにおける狩猟タピスリー—《デヴォンシャー公の狩猟タピスリー》の「熊と猪狩り」を中心に—」『Aspects of Problems in Western Art History』 19、7-22 頁.

高山博 (タカヤマ ヒロシ)

『中世ヨーロッパの政治的結合体～統治の諸相と比較』(亀長洋子との共編、東京大学出版会)

[共訳] ジャネット・L・アブー＝ルゴド『ヨーロッパ覇権以前 もう一つの世界システム』(岩波現代文庫)

「高山博教授退職記念インタビュー」『クリオ』 35・36、1-36 頁.

瀧本佳容子 (タキモト カヨコ)

[共著] 『フェイク・スペクトラム 文学における〈嘘〉の諸相』納富信留・明星聖子編、勉誠出版、2022 年 (執筆担当「第 3 章 近代的作者の誕生 —セルバンテスと『贋作ドン・キホーテ』—」 75-95 頁.)

[共著] 「慶應義塾図書館所蔵アルフォンソ 10 世関連写本ファクシミリ版二作品解説 —『聖母マリアの古謡集』および『チェス、さいころ、盤上ゲームの書—』」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』 54、75-96 頁.

[新刊紹介] Gemma Avenozza et al. (eds.), *La producción del libro en la Edad Media: Una visión*

interdisciplinary 『西洋中世研究』 14、204-205 頁.

[新刊紹介] Francisco Gimeno Méndez, *Historia antropológica de los romances hispanos* 『西洋中世研究』 14、219-220 頁.

田口正樹 (タグチ マサキ)

「特集「中世のユダヤ人」に寄せて」(佐々木博光との共著) 『西洋中世研究』 14、2-6 頁.

[書評]「河内祥輔、小口雅史、M・メルジオヴスキ、E・ヴィダー『儀礼・象徴・意思決定—日欧の古代・中世書字文化』」 『古文書研究』 93、129-131 頁.

[新刊紹介] Mathias KLUGE, *Verschuldete Könige: Geld, Politik und die Kammer des Reiches im 15. Jahrhundert* [Monumenta Germaniae Historica, Schriften, Bd. 77], Wiesbaden, Harrassowitz Verlag, 2021, liii+562p. 『西洋中世研究』 14、227 頁.

[新刊紹介] David von MAYENBURG (ed.), *Konfliktlösung im Mittelalter* [Handbuch zur Geschichte der Konfliktlösung in Europa, Bd. 2], Berlin, Springer, 2021, xxxiv+478p. 『西洋中世研究』 14、230-231 頁.

武井治喜 (タケイ ハルキ)

「一〇五九年のローマ教会会議における聖職者妻帯禁止令の再考—教皇改革における司祭観と聖体観を巡って—」 『史林』 (史学研究会) 105 (5)、1-37 頁.

田島篤史 (タジマ アツシ)

「名医か、やぶ医者か—ハンス・ザックス謝肉祭劇第 11 番『阿呆の切開手術』における「医者」とルター的万人祭司」 『独逸文学』 66、61-82 頁.

「迫害の歴史から被被害者の歴史へ—カルロ・ギンズブルグ『ベナンダンティ』刊行 50 周年に寄せて」 『資料学の方法を探る』 21、114-120 頁.

「白馬の騎士と提灯行列—ドイツ語圏における聖マルティン祭」 『愛媛日独協会会報』 29、7-14 頁.

「イエス・キリストの誕生日?—降誕祭 (クリスマス) とその起源」 『世界の都市と地域』 9、3-9 頁.

「ドイツ語圏の巡礼—アイヒシュテットに眠る聖女とヴァルプルギスの夜」 『月刊へんろ』 463、5 頁.

[共訳]「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554 年) (9)」 『独逸文学』 66、83-92 頁.

田中圭子 (タナカ ケイコ)

[翻訳]「コンラート・ツェルティスのジクストゥス・トゥヒャー宛書簡 (1491/92 年)」 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』 59、71-74 頁.

田中俊之 (タナカ トシユキ)

「スイス北西部の体僕制をめぐる都市・領主間紛争 (1465 年) —往復書簡の再読と再活字化—」 『金沢大学歴史言語文化学系論集 [史学・考古学篇]』 14、19-62 頁.

田辺加恵 (タナベ カエ)

『聖ヤコブ崇敬とサンティアゴ巡礼—中世スペインから植民地期メキシコへの歴史的つながりを求めて』 (大原志麻・井上幸孝との共著、春風社)

田辺清 (タナベ キヨシ)

「レオナルド・ダ・ヴィンチと古典古代—東方との関連について—」 『東洋研究』 (大東文化大学東洋研

究所) 225、1-9 頁.

田邊めぐみ (タナベ メグミ)

L'Hermine: une devise éloquente dans les *Heures de Marguerite d'Orléans*, in Miguel Metelo Seixas, Laurent Hablot, Matteo Ferrai (dir.), *Devises, lettres, chiffres et couleurs : un code emblématique, 1350-1550*, Lisbonne : Instituto de Estudos Medievais, pp. 259-270.

[共編] *Horizons médiévaux d'Orient et d'Occident: Regards croisés entre France et Japon*, Paris : Editions de la Sorbonne (Atsushi Egawa, Marc Smith, Hanno Wijsman との共編).

[執筆協力] Ambre Vilain_« Pratiques sigillaires d'Occident et d'Extrême-Orient: un essai comparatif », *Ibid.*, pp. 245-268.

[共訳] Shoichi Furukawa « Yashiro Yukio et la fondation du musée Yamato-Bunkakan : le musée comme lieu d'échanges culturels », *Ibid.*, pp. 23-47 (Rémy Cordonnier との共訳).

Maromitsu Tsukamoto « La collection des palais impériaux chinois et la genèse de la culture extrême-orientale : la renaissance du « pavillon secret » (*Bige*) chez les Song du Sud et la transformation du monde bouddhique dans la région du Jiangnan », *Ibid.*, pp. 49-86 (Rémy Cordonnier, Benoît Grévin との共訳).

津田拓郎 (ツダ タクロウ)

Die sogenannten Kapitularien und ihre Archivierung in der Karolingerzeit. *Frühmittelalterliche Studien* 56-1, pp. 65-95.

「令和 3 年発行中学校社会科歴史的分野の教科書における西洋中近世史の扱いについて (特集 歴史教育と「歴史総合)」」『ヨーロッパ文化史研究』(東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所) 23、5-34 頁.

藤内哲也 (トウナイ テツヤ)

「都市社会の中のユダヤ人—レオン・モデナの『自伝』を読む」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』(昭和堂)、169-183 頁.

中川久嗣 (ナカガワ ヒサシ)

「南フランス・ガール県東部のロマネスク聖堂 (4)」『東海大学紀要 文化社会学部』7、71-91 頁.

「南フランス・ガール県東部のロマネスク聖堂 (5)」『東海大学紀要 文化社会学部』8、69-118 頁.

「南フランス・ドローム県中部の中世ロマネスク聖堂 (2)」『文明研究』(東海大学文明学会) 40、75-111 頁.

仲田公輔 (ナカダ コウスケ)

「ビザンツ統治政策とアルメニアの在地有力者」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体』(東京大学出版会)、543-576 頁.

'Revisiting the Role of Armenians in the Creation of the Theme of Lykandos', in T. Masuda (ed.), *Byzantine Cappadocia* (Leiden: Alexandros Press), pp. 267-289.

[書評]「櫻井康人『十字軍国家の研究』」『西洋史学』273、82-84 頁.

中堀博司 (ナカホリ ヒロシ)

「天皇家をめぐる宮廷外交の一側面—金羊毛勲章とガーター勲章—」『宮崎大学教育学部紀要』98、51-60 頁.

「ブルゴーニュ宮廷史関連史料について—フランス地方文書館点描—」『宮崎県地域史研究』 34、17-37 頁.

中谷惣 (ナカヤ ソウ)

Raising Claims. Justice and Commune in Late Medieval Italy, Brepols.

“Credit Practices and Networks in the Medieval Italian City: The Memoriale of Doctor Iacopo di Coluccino of Lucca”, *Journal of Medieval History* 48(5), pp. 686-713.

「中世末期トスカーナの都市と農村の信用ネットワーク—ヤコポ・コルッチーノ覚書より—」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』

西村善矢 (ニシムラ ヨシヤ)

「ランゴバルド人か、それともランゴバルド期か—考古学者と歴史家の対話—」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』(昭和堂)、2-16 頁.

「文書は領主支配の道具か、それとも投資の手段か—11・12 世紀アマルフィ地方の農地契約文書—」『人間学研究』(名城大学人間学部) 20、19-43 頁.

濱野敦史 (ハマノ アツシ)

[新刊紹介]「Christiane KLAPISCH-ZUBER, Mariages à la florentine: femmes et vie de famille à Florence (XIVe-XVe siècle) [Hautes Études], Paris, EHESS Gallimard Seuil, 2020」『西洋中世研究』 14、226 頁.

平野智洋 (ヒラノ トモヒロ)

「後期ビザンツ帝国に於ける「皇族」：ヤガリス家の事例—系譜・政治的地位・活動—」『東海史学』 56、37-54 頁.

藤崎衛 (フジサキ マモル)

「教会と修道会」(大貫俊夫と共著) 高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体 統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、283-290 頁.

「教皇使節論—代理人による教皇の教会統治」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体 統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、291-310 頁.

「教皇庁とモンゴルとの接触—13 世紀におけるコミュニケーション手段」『メトロポリタン史学』 17 (2021 年)、67-88 頁.

松本涼 (マツモト サヤカ)

[解説]『アイスランド海の女の人類学』(青土社)

[翻訳] ソウルディス・エッダ・ヨウハネスドッティル「ヨームスヴィーキングルの過去と現在」『日本アイスランド学会会報』 41、1-33 頁.

三佐川亮宏 (ミサガワ アキヒロ)

[単行本 (共著)]「ヨーロッパにおける帝国観念と民族意識—中世ドイツ人のアイデンティティ問題」『岩波講座・世界歴史』 第 8 巻「西アジアとヨーロッパの形成」、(岩波書店)、181-200 頁.

[雑誌論文]「クレモナのリウトブランド『報復の書』 / ヴァイセンブルクのアーダルベルト『レーギノ年代記続編』一人と作品」『東海大学文学部紀要』112、1-44頁。

[新刊紹介] Andreas Bihrer - Stephan Bruhn (Hg.) *Jenseits des Königshofs. Bischöfe und ihre Diözesen im Nachkarolingischen ostfränkisch-deutschen Reich (850-1100)*, (Studien zur Germania Sacra, Neue Folge, 10), de Gruyter, 2019『西洋中世研究』14、206-207頁。

向井伸哉 (ムカイ シンヤ)

「一四世紀後半南仏ベジエ地方における自治体間の協力関係」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体—統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、441-469頁。

「中世フランス都市の民主的ガバナンス—南仏学界の動向をまじえて」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体—統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、409-412頁。

「日仏比較中世文書論のために: 「文書」定義の観点と公証ならびに書簡から見た国制」『市大日本史』25、23-31頁。

[回顧と展望]「2021年の歴史学界—回顧と展望—: ヨーロッパ(中世一般、中世西欧・南欧)」『史学雑誌』131(5)、326-331頁。

[共訳]フロセル・サバテ著「アラゴン連合王国における権力濫用(一三—一四世紀)—病的逸脱、腐敗、戦略、あるいは典型?」フロセル・サバテ著、阿部俊大監訳『アラゴン連合王国の歴史: 中世後期ヨーロッパの一政治モデル』(明石書店)、97-129頁。

武藤奈月 (ムトウ ナツキ)

「古代物語(roman d'antiquité)の研究動向」『西洋中世研究』14、188-201頁。

村上寛 (ムラカミ ヒロシ)

「ホノリウス『雅歌講解』試訳(1)」『清泉女子大学キリスト教文化研究所年報』(清泉女子大学キリスト教文化研究所)30、41-61頁。

村田光司 (ムラタ コウジ)

Between Byzantium and the Sultanate of Rūm: Manuel and Michael Laskaris and the Origin of the Tzamantouroi. in T. Masuda (ed.), *Byzantine Cappadocia*, Leiden: Alexandros Press, pp. 234-266. (with H. Hayakawa and M. Sōma) The Variable Earth's Rotation in the 4th–7th Centuries: New ΔT Constraints from Byzantine Eclipse Records. *Publications of the Astronomical Society of the Pacific* 134 (1039), no. 094401, pp. 1-18.

[翻訳](加納修、小坂俊介と共訳)「ヨルダネス『ゲティカ』翻訳(1)」『東方キリスト教世界研究』6、3-57頁。

[書評](E・パールィシェフ、白井哲哉と共著)「大阪大学アーカイブズ編『アーカイブズとアーキビスト—記録を守り伝える担い手たち—』」『アーカイブズ学研究』36、77-85頁。

[新刊紹介]「C. Gastgeber, E. Mitsiou, J. Preiser-Kapeller & V. Zervan (eds.), *A Companion to the Patriarchate of Constantinople*」『西洋中世研究』14、216頁。

村松綾 (ムラマツ アヤ)

「中世後期スイスの緩やかな政治的結合体—立役者、盟約者団代表者会議が果たした役割」高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体: 統治の諸相と比較』(東京大学出版会)、265-280頁。

村松真理子（ムラマツ マリコ）

「ダンテ『神曲』の森と植物をめぐる：大江健三郎とマリア・コルティの対話に導かれて」《Odysseus：東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要》、143-156 頁。

森本光（モリモト ヒカル）

「友好の場としての国王宮廷—フリードリヒ一世とバイエルン諸侯を例に」高山博、亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体—統治の諸相と比較』（東京大学出版会）、201-221 頁。

山口隆介（ヤマグチ リュウスケ）

「トマス・アキナスにおける7つの「賜物」と「至福」、宗教倫理学会『宗教と倫理』22、43-55 頁。
「トマス・アキナスの vanitas 概念」、聖泉大学紀要『聖泉論叢』29、131-140 頁。

山中良子（ヤマナカ リョウコ）

Byzantine Silk on the Silk Roads, Journeys between East and West, Past and Present (Sarah E. Braddock Clarkeと共著 出版社Bloomsbury publishers, London)

山辺規子（ヤマベ ノリコ）

「ポデスター—イタリアの都市をつなぐ役人」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』（昭和堂）、96-103 頁。

「はじめに」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』（昭和堂）、i-vii 頁。

横山安由美（ヨコヤマ アユミ）

『チョーサー巡礼：古典の遺産と中世の新しい息吹きに導かれて』（池上忠弘、狩野晃一との共著、悠書館）

「『薔薇物語』論争初期の争点とは：ジャン・ド・モントルイユ対クリスチヌ・ド・ピザン」『立教大学フランス文学』51、3-17 頁。

和栗珠里（ワグリ ジュリ）

「16 世紀ヴェネツィア寡頭支配層の多面的ネットワーク—コンパニーア・デッラ・カルツァの会員分析を通して—」『人間文化研究』16、195-221 頁。

「ヴェネツィア共和国とナポリ王国」イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』（昭和堂）、73-87 頁。

渡部武士（ワタナベ タケシ）

[新刊紹介] Claudia RABEL, Laurent HABLOT et François JACQUESSON (dir.), *Dans l'atelier de Michel Pastoureau: hommages de nombreux amis et collègues*, Tours, Presses Universitaires François-Rabelais, 2021 『西洋中世研究』14、234-235 頁。

渡辺有美（ワタナベ ユミ）

「『ロレートの連禱』と『無原罪の御宿り』—図像との関連性—」『東北学院大学 キリスト教文化研究所紀要』40、19-40 頁。